

第三期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第5回）  
議事要録

- 日時 平成26年2月25日（火）午後7時～9時10分
- 場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
- 出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、高橋豊委員、早川峻委員、村井寿夫委員、塩澤誠一郎委員、藻谷征子委員、島英二委員、押元正樹委員、木村文委員、千綿澄子委員、島森和子委員、高石優委員、越智征夫委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、新垣俊彦委員、高橋健一委員、木村浩委員  
事務局（馬場主査他） 事業者（荏原環境プラント 塚本副参事他）  
コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他） 傍聴者1名
- 欠席 興相信子委員、金子和雄委員、岡田敬一委員
- 配布資料 1. 事例研究会要旨、2. 「エコプラザ」の活動を考える、3. エコプラザ（仮称）の検討について、4. エコプラザの事業運営について、5. エコセンターの新エネルギー提案、6. エコスクールとしての土橋小学校、7. エコプラザ（仮称）の実証実験（案）、クリーンセンター搬入廃材リスト、環境関連団体一覧、8. 第三期施設・周辺整備協議会検討スケジュール（案）、9. 視察行程表

## 1. エコプラザ（仮称）の検討

### （1）事例研究会（2/17）の報告

- ・2月17日に行った事例研究会（講師：大月ヒロ子さん「国内外のクリエイティブリユースの事例」）の概要について事務局から報告。
- ・会長 アメリカの子どもミュージアムは倉庫などの空間を再利用していることが多い。また、運営団体について、イギリスはチャリティでの事業が多く、アメリカや日本のNPOとは性格が違う点にも気を付けて振り返ってもらえればと思う。

### （2）エコプラザ（仮称）に求められる機能等について

- 委員提出資料「エコプラザの活動を考える」については事務局から紹介し、「エコプラザ（仮称）の検討について」、「エコプラザの事業運営について」は提出した各委員から説明があった。
- ・委員（「エコプラザ（仮称）の検討」について）：協議会の議論が市民の間になかなか広がっていかないと感じており、広報を課題として挙げた。
  - ・委員（「エコプラザの事業運営」についてスライドを使用し説明）：エコプラザを「市民にとってなくてはならない施設」とするために、市民が利用する場、市民のしたいことをサポートできる場、ごみ減量の行動を促す場とする必要がある。減量には、壊れたものや不要なものを持つ一人一人の悩み・思いと向き合って、捨てないで済む方法を一緒に考えること大事で、相談対応が必要だ。リペアやアップサイクル、オークションなど、皆で一緒に解決策を考えながら、個人のモノにまつわる思いを形にして物語を紡いでいけるようなネットワークづくりができるとよい。個人だけでなく教育や福祉など様々な現場からの相談に対応するためにもクリエイティブリユース機能は必要だ。長く使えるロングライフデザインの什器等をエコプラザで揃える

ような取り組みをオープン前から行うのも面白い。アップサイクル機能は、ごみ処理場のマイナスイメージを払拭し、発信していくうえで大切になる。またエコプラザ主催のごみ減量のプログラムのほか、多くの人に関われるように、エコプラザが場所やファシリテーション等を通じて市民のやりたいことを支援する市民事業ができるといい。

スペースの利用については、貸しスペースのニーズはあるだろう。また、地域に開かれた施設として誰でもいつでも自由に使える共用スペースがあるといい。プラットホームの吹き抜けの空間はぜひ残すべきだ。地域住民の苦渋の選択でこの地に建てられたことを将来にわたり市民に伝える遺構として重要だ。また、あのような空間は市内になく、いろいろな使い方が考えられる。映画上映などもできるのではないか。

運営については、選択肢はあまりないかもしれないが、業務として建物の維持管理、自主事業や市民事業、貸しスペース事業が考えられる。自主事業・市民事業を行うには、コーディネーターができる専門家が一人は必要になるだろう。

- **委員** エコプラザの基本の機能は、学びと実践の場の提供だと考えている。学びについては、ごみに関する知識の学習として、減量や分別等の必要性の啓蒙を地道にやっていかなければいけない。実践については、モノの再生活用、廃材を利用したモノづくりの場の提供が必要になってくる。外国の事例も参考にしながら、サポーター、専門家を活用し、子供への教育という機能を取り入れた活動について議論できるとよいだろう。
- **委員** 委員の提案は整理されていてよい。この提案の中で自分が興味を持った分野について取り組んでいけば展開が開けていくと思うし、人材も育てていけるのではないか。
- **会長** 委員から専門家という話が出たが、協働、コラボレーションができることが重要である。機能についてはすぐに決まるわけではなく、また運営の考え方についても今後意見を出し合うことで成熟していけばと期待している。
- **委員** リサイクルも重要だが、長持ちさせることもごみの減量につながる。1回使ったものでももう一度使えば減量になる。ロングデザインという意味でいうと、日本の家具には民芸品など重厚なものがあり、ロングデザインであると考えている。これらを判断するには骨董的なものも探りだせる技術も必要だ。アップサイクルなど新しい考えを入れるとともに、文化の継承という意味でも大事だと感じている。
- **委員** エコプラザの運営はボランティアだけでは無理だと考えるが、専門家を雇う場合の費用はどうするのか。また、委員の提案内容を全部実現しようとするエコプラザではスペースが足りないように思う。狭いスペースでどう運営していくかも考えていかなければならない。クリーンセンターはごみを焼却する場所であり、その焼却ごみを減らすことが重要である。一般家庭から出るごみを減らす必要があり、それにはやはり教育が一番大切で、あまり多くの事業に手を広げなくてもいいのではないかと感じた。
- **会長** 運営主体については、機能を議論していく中で明らかになっていくかと期待している。アメリカやイギリスには寄付文化があり、寄付に対する姿勢が日本と違う点は意識しておくべきだろう。企業の中にも寄付の精神が入っており、また美術館や財団など、寄付を募るために熱心に広報や宣伝などを行っている。日本の文化とは相容れない部分もあるように感じている。
- **委員** 運営団体をどうするかは今後の課題になるが、自主事業と建物の維持管理を切り分けることも考えられる。全部を担える団体を作る、または探すのはなかなか難しいだろう。自主事業などソフト面については多くの市民を巻き込みながら人材を幅広く集めてやっていけないか

と考えており、そのための実験的な取り組みを始めてみたいと考えている。

- **会長** エコプラザが実際に完成するまでだいぶ時間があるので、それまでに様々な試行を重ねていけばよいのではないかと。また、教育の問題については、日本の教育は学習指導要領に拠っているため偏りがあり、たとえば小学4年で廃棄物や下水道について学ぶと決められてしまっている。背景にある社会システムまで考えると、中学・高校・大学以降も発達に応じて学びを続けることが大事である。
- **委員** まず色々取り組んでみようということには賛成である。ライフスタイルを変えるという効果を狙うことがエコプラザにおいて一番やらなければならないことだと思う。啓蒙や教育というどうしても受け身になってしまうので、自主性をどれだけ高められるかが重要だ。敷居を低くして活動を始めやすくして、場所を提供するなどし、検証をしてみて数多くの団体が活動を始めてくれればよい。その中からエコプラザの運営の母体になる団体がでてくるかもしれない。
- **委員** これまでの経験から、参加するというよりも自分から何かを始めて働き手になる方が、皆元気になるように感じている。廃材を前向きに材料として使う考え方にひかれる。デザインやものづくりを得意にしている人は市内にも多いと思うので、場や材料を揃え、仕掛けをしていけば、やりたいという人は出てくると思う。そのような人たちに対して、専門的なことをサポートできる体制が整えられればよいのではないかと感じている

資料「エコセンターの新エネルギー提案」、「エコスクールとしての土橋小学校」について事務局より説明があった。

資料「エコプラザ（仮称）の実証実験（案）、クリーンセンター搬入廃材リスト、環境関連団体一覧」について事務局より説明があった。

## 2. その他

- **副会長** 施設で行うことと空間とは不可分であり、スペース的にもかなり限られた中での話になるので、そのあたりも念頭においてプログラムを考えていくと具体的なところにつながると思う。また、スペースがそれほどなくても、技術を活用したり、外部と連携したりしていろいろと展開できる可能性があるのでは、これからの議論で積み上げていければ面白いだろう。
- **事務局** （今後のスケジュール案について説明）平成26年度についても、第三期施設・周辺整備協議会を1年延長という形で継続したい。26年度に市ではエコプラザとして残せる部分を明らかにするため既存施設の健全度調査を行い、また環境部でワーキングチームを立ち上げて検討を始める。市の考え方をまとめながら皆さんと意見交換をしていきたい。ごみだけでなく、環境という意味で少し視野を広げていってもいいのではないかと考えている。周辺整備についても庁内推進本部と調整を図りながら庁内での検討を進め、すぐに形になるものではないが、検討状況を報告できるようにしていきたい。
- （視察行程表について説明）3月11日に江東区環境学習施設「えこっくる江東」、ナカダイの品川ショールーム、東京ガス環境エネルギー館の視察を実施する。

以上